

学習の手引き

目 次

- 1 学習を始める前に
- 2 基礎学力を身につけるために
 - (1) 意欲を持って学習に取り組もう
 - (2) 家庭学習の習慣を身につけるために
 - (3) 授業の受け方
 - (4) ノートの取り方
 - (5) テストの受け方きみの学習法チェック表

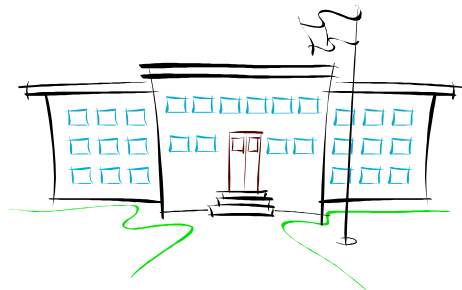


3 各教科の学習の方法

国語 社会 数学 理科 英語

音楽 美術 保健体育 技術・家庭

*各項目をクリックすると、そのページが表示されるよ。

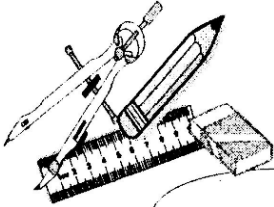


西紫原中学校

1 学習を始める前に

気持ちを切り替えよう。

深呼吸などして心を落ち着け、学習への意欲を
高めます。



必要な学習用具は、最初にそろえておこう。

途中で「あれがない!」と探し始めると、
思考がとぎれます。

机の上は、片づけておこう。

散らかっていると、集中できません。



色ペンを準備しておこう。

大事なところや、わからないところに
線を引いたり印を付いたりします。



学習の目的を持ちましょう。

授業の場合は、目標を確認します。
家庭学習の場合は、自分なりの目標を持ち、
計画を立てて学習します。

2 基礎学力を身につけるために

(1) 意欲を持って学習に取り組もう

「何のために勉強しているのだろう」

「勉強なんて、めんどうだなあ…」

誰もが感じたことがあるのではないのでしょうか。

今、学生時代を終え、社会人となっている人たちも、そんなことを考えながら大人になりました。そして、「もっとがんばればよかった…」とときには後悔しながら。

勉強には、大きく分けて、「学力をつけるための勉強」と「人として社会の中で生活していくための心の勉強」があるように思います。どちらの勉強も、とても大切です。なぜなら、自分の可能性を広げるからです。両方、きちんとおぼしていきたいですね。

ところで現在は、点数で上級学校を選択するのではなく、自分の希望や将来の目標で進路を選択する時代です。基礎学力がきちんと身につけていると、多くの上級学校や職業の中から、自分の進路を選択できるのです。つきたい職業や行きたい上級学校が決まったとき、「もっとがんばっておけばよかった」と後悔せずにすむよう、基礎学力を身につけておきましょう。また、社会の中で、自分の力や個性を十分に発揮し、円滑な人間関係が築けるよう、部活動や学校行事、地域行事、専門部活動等に積極的に取り組み、心の勉強もしっかりしておきましょう。

ここでは、学習活動において、基礎学力を身につけるために、どのようにすれば意欲をもって学習に取り組めるかを考えてみましょう。ポイントを5つ示してみました。「やる気がしない」なんてつぶやく自分を励まして、前向きに取り組んでいきましょう。

〈ポイント1〉

自分のためであると自覚をもつ。

〈ポイント2〉

めざす職業などの、大きな目標を掲げる。

〈ポイント3〉

学習時間や点数など、身近な目標をもつ。

〈ポイント4〉

ときには、ライバルや目標とする人物をもつ。

〈ポイント5〉

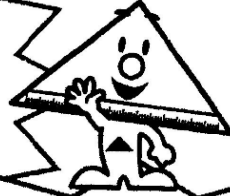
学習環境を整え、友人と伸ばし合う雰囲気作りをする。

(2) 家庭学習の習慣を身につけるために

ア 学習の計画を立てる時には、次のことに注意します。

計画は、ある程度おおまかに。

細か過ぎる計画は、計画を立てるのに時間がかかるだけでなく、思い通りにいかないとかえってイライラすることもあります。

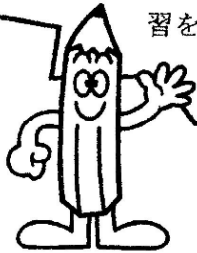


計画は、予備の時間を作る。

予定の時間を超えてしまっても、いらだたずにすむよう、また、気分や進度によって、計画を多少変更できるようにします。

必ずすべきことは、先に。

宿題や、テストの反省など、欠かしてはいけないことは、先に済ませましょう。残った時間を、自分に必要な学習を選んで計画を立てましょう。

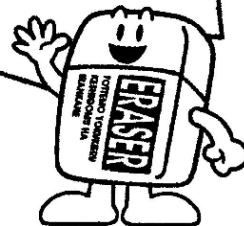


休憩は上手にとる。

集中できる時間の長さは、人によって違います。また、リラックスできる行動も様々です。自分に合った休憩をとりましょう。また、徐々に集中できる時間が長くなるよう自分を鍛えていきましょう。

学習内容の組み合わせを考える。

行う運動によって、使う筋肉が違うように、学習内容によって働く脳も違います。記憶中心の学習と思考中心の学習を交互に組み合わせてみましょう。



イ 家庭学習の立て方の例

1週間程度、または1日の計画を立て、時間を有効に使えるようにしましょう。
その日の「やるべき学習」「気分がのってきそうな教科」「学習に充てられる時間」等に
合わせて、学習内容や方法を選びます。

A 夕食後に家庭学習を行う計画例

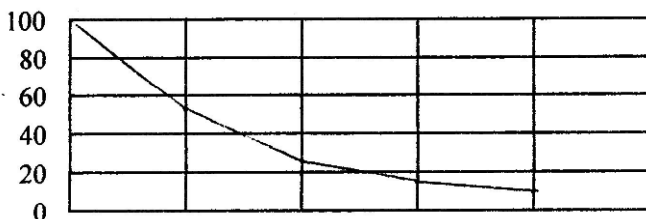
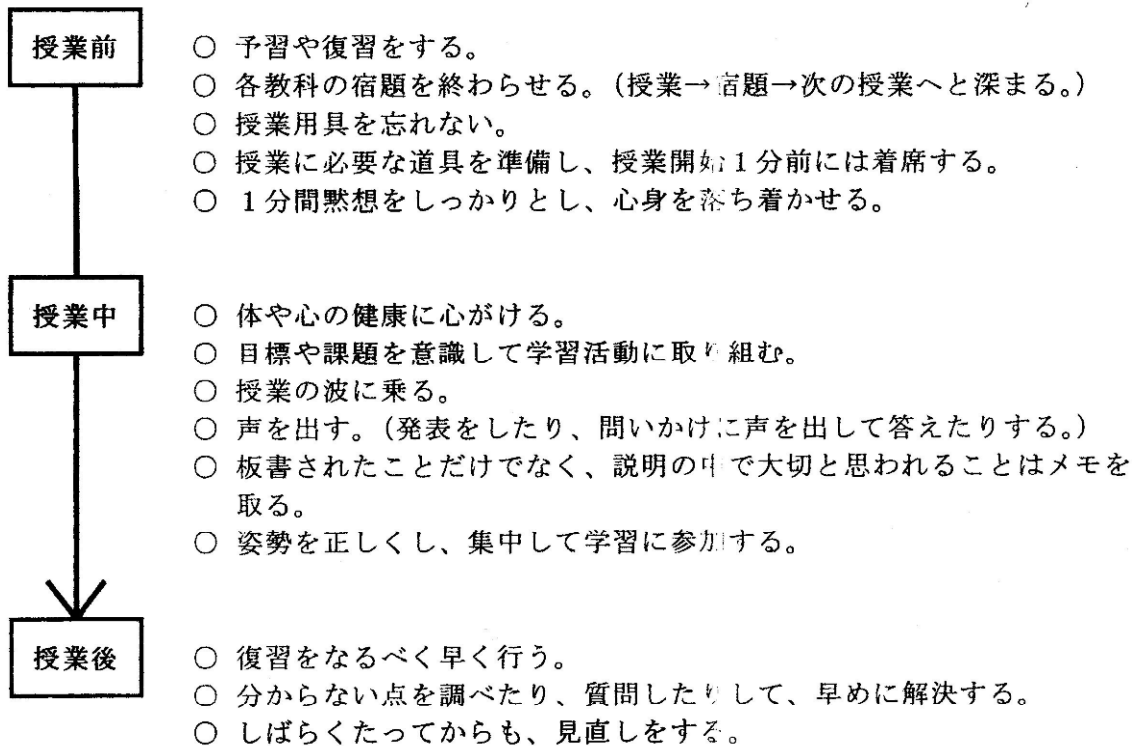
B 夕食をはさんで家庭学習を行う計画例

C 朝にも家庭学習を行う計画例（夜、部活動等で疲れて寝てしまうという人向き）

	5	6	7	18	19	20	21	22	23	24
A	睡眠	準備	学校	食事・入浴 自由		宿題	宿題	復習 暗記	睡眠	
B	睡眠	準備	学校	宿題	食事・入浴 自由		宿題	復習 暗記	睡眠	
C	暗記	準備	学校	宿題	食事 自由	宿題	入浴 復習	睡眠	睡眠	

(3) 授業の受け方

次のことに注意し、授業を受けましょう。



1日後 7日後 14日後 21日後
【授業後の復習を行う日と記憶】

西中の伝統

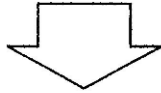
其の壱： ノーチャイム

其の貳： 1分前着席

其の参： 授業前の黙想

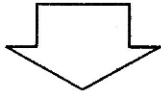
(4) ノートのとり方

なぜノートをとるのか？



- 1 ノートをとろうと思うと先生の話に集中し、要点をまとめようとするので授業に集中できる。
- 2 書くことによって印象が強く残る。
- 3 整理されたノートは復習に役立ち、記憶を確実にするのに役立つ。

ノートの原則（ノートのとり方が上手になるコツ）



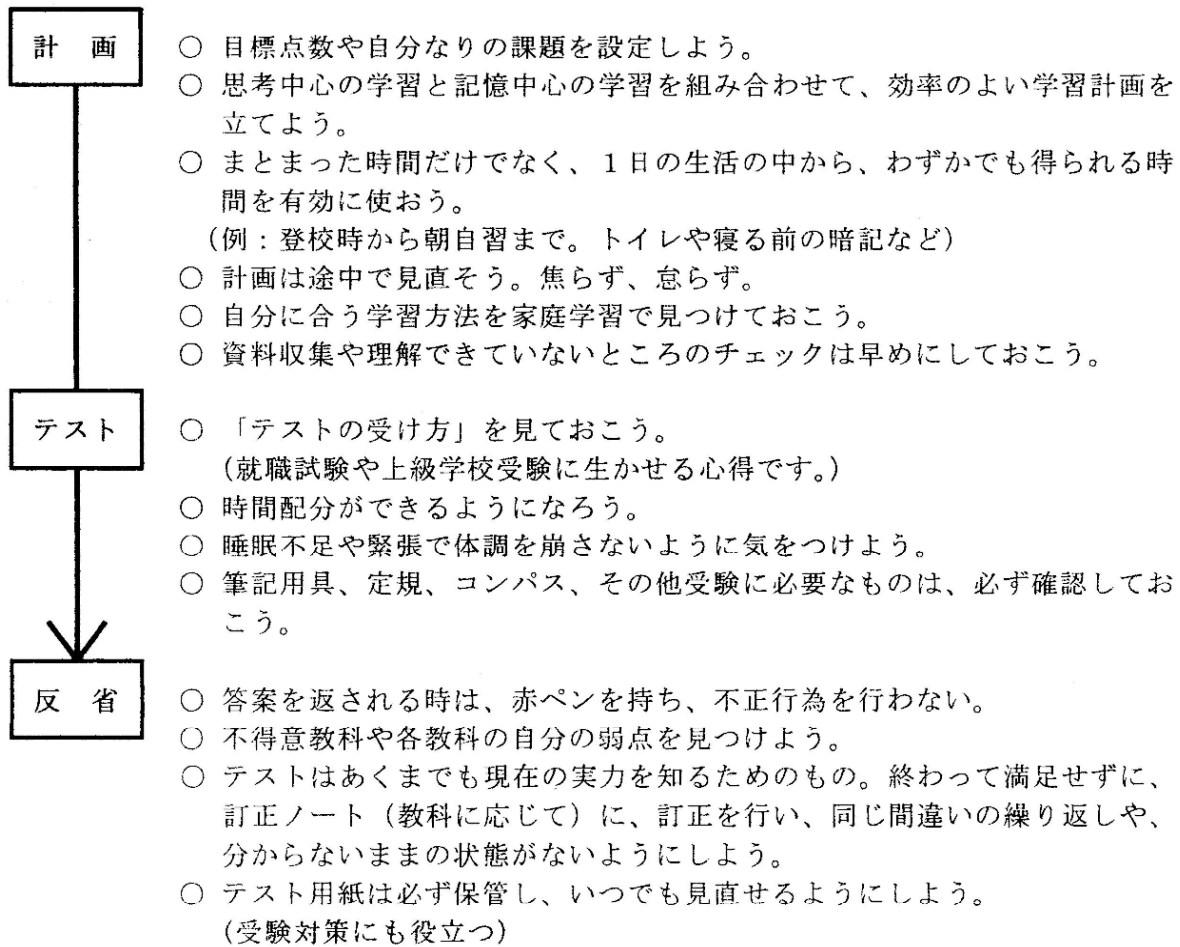
- 1 まずしっかりと筆記用具を揃えよう。

何が必要ですか？

- 2 教科ごとにノートを作る。（大学ノートでOK!）
* 教科によっては、大学ノートではなく指定されたノートを使うこともあるので、各教科担当の先生の指示に従いましょう。
- 3 黒板に書いてあることを確実に書く。
- 4 色分けや下線をつけることにより、ノートにメリハリをつける。
- 5 □ や → を使ってまとめる。
- 6 余白を空けておく。（後から気付いたことをメモするのに役立ちます。）
- 7 自分の弱点や理解しにくかったところに印をつけておく。

人間は知識を覚えた瞬間から忘却（忘れること）が始まります。
覚えたことをノートを見ながらもう一度復習すると、確実に知識が定着します。

(5) テストの受け方



テストの受け方について(生徒心得)

- * テストの前日は机の中の物を取り出して下校する。
- 1 テスト開始、3分前に着席する。
- 2 机には鉛筆（シャープペンシルも可）・消しゴム・定規・コンパスのみで、筆箱は机の中に入れておく。（机の中は筆箱以外入れない。）
- 3 鞆等は後ろの鞆棚に休み時間のうちに入れておく。
- 4 テスト中、両サイドの机は壁につける。
- 5 印刷不鮮明や質問、物を落とした時などは、無言で手を挙げ、監督の先生の指示を待つ。
- 6 テスト中、必要な場合以外は声を出してはならない。
- 7 カンニング等、不正行為はしてはならない。
- 8 物の貸し借りはしてはならない。

きみの学習法チェック表

A・・・はい

B・・・どちらともいえない

C・・・いいえ

1学期	1	授業の前に目を通していますか。	A	B	C
	2	家では決めた時間に勉強していますか。	A	B	C
	3	授業中におしゃべりはしないですか。	A	B	C
	4	分からないところは先生や友達によく質問していますか。	A	B	C
	5	ノートや配られたプリント類をしっかりと整理していますか。	A	B	C
	6	その日習ったことを家で復習していますか。	A	B	C
	7	宿題は必ずやっていますか。	A	B	C
	8	テレビなどは時間たり番組を決めて見えていますか。	A	B	C
	9	寝る前に次の日の授業の道具を用意していますか。	A	B	C
	10	だいたい決められた時間に寝ていますか。	A	B	C
		A・・・2点 B・・・1点 C・・・0点 合計			

2学期	1	授業の前に目を通していますか。	A	B	C
	2	家では決めた時間に勉強していますか。	A	B	C
	3	授業中におしゃべりはしないですか。	A	B	C
	4	分からないところは先生や友達によく質問していますか。	A	B	C
	5	ノートや配られたプリント類をしっかりと整理していますか。	A	B	C
	6	その日習ったことを家で復習していますか。	A	B	C
	7	宿題は必ずやっていますか。	A	B	C
	8	テレビなどは時間たり番組を決めて見えていますか。	A	B	C
	9	寝る前に次の日の授業の道具を用意していますか。	A	B	C
	10	だいたい決められた時間に寝ていますか。	A	B	C
		A・・・2点 B・・・1点 C・・・0点 合計			

3学期	1	授業の前に目を通していますか。	A	B	C
	2	家では決めた時間に勉強していますか。	A	B	C
	3	授業中におしゃべりはしないですか。	A	B	C
	4	分からないところは先生や友達によく質問していますか。	A	B	C
	5	ノートや配られたプリント類をしっかりと整理していますか。	A	B	C
	6	その日習ったことを家で復習していますか。	A	B	C
	7	宿題は必ずやっていますか。	A	B	C
	8	テレビなどは時間たり番組を決めて見えていますか。	A	B	C
	9	寝る前に次の日の授業の道具を用意していますか。	A	B	C
	10	だいたい決められた時間に寝ていますか。	A	B	C
		A・・・2点 B・・・1点 C・・・0点 合計			

総合評価

20点～17点	大変良い！（よく頑張っています。このままの学習を続けよう。）
16点～10点	もう一歩！（あと少しです。できなかったところをできるようにしよう。）
9点～0点	がんばれ！（努力が足りません。学習方法の見直しと改善が必要です。）

国語の勉強の方法


教科のねらい

- ・ 国語に対する興味・関心を高める。
- ・ 言葉を正確に理解する能力を育て、伝え合う力を高める。
- ・ 思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにする。
- ・ 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる。

予習の仕方

- 1 全文を音読しながら、読めない漢字、意味のわからない語句に _____ 線を引く。
- 2 読めない漢字（新出漢字）や、意味のわからない語句（注意する語句）を調べる。
- 3 繰り返し朗読の練習をする。

授業の受け方

- 1 大切なところに印（ _____ や  など）をつけたり、考えや疑問をメモしたりする。

教科書のあいているところにどんどん書きこもう。

→課題を解決するためには、よく読みよく考えることが大切です。これらのことは、その助けになります。

- 2 先生や友人の言うことに注意を払い、必要なことはメモしたり、重要なところや問題になったところは印をつけておく。
→他の人の意見を聞くと、新しい視点から考えたり、自分の考えを深めたりすることが出来ます。とても重要な学習です。
- 3 板書・説明の中で、必要なことや重要なことをノートに書き留める。
 - ① 縦書きで書く。
 - ② 字はていねいに見やすい大きさと書く。(HB以上の濃いものを使うこと)
 - ③ 色ペンなどを使って、わかりやすく工夫して書く。
 - ④ 復習のときの参考のために、間違っても消したりせず、残しておく。→ノートは自分の考えをまとめ、後から授業を思い出すときに重要な手がかりになります。

復習の仕方

- 1 教科書等の学習したところ、プリントやノートを読み返して付け加えたり、重要な事柄を覚えたりする。
- 2 教科書の「学びの道しるべ」や「ワーク」の内容を学習する。

家庭学習の充実

- 1 毎日漢字を練習して覚えよう。 → 漢字テストがあります。
- 2 予習の仕方・復習の仕方のところを書いてあることをしっかりとやろう。

テストに向けた取り組み

- 1 漢字は読みだけ書いておいて漢字を書いてみる、漢字を書いておいて読みを書くなどして書けなかった漢字を何回も練習して覚えよう。
- 2 教科書やワーク、配られたプリント、問題を解く。○×だけでなくなぜそうなるのかを理解しておく。わからなかったら、先生に質問しよう。
- 3 返却されたテストは、解答をよく聞いて正しい答えを書き写し、間違ったところは家でもう一度やってみる。

発展的な学習として

- 1 20分読書をし、最低月一冊は読み終わる。
- 2 新聞やテレビのニュースや社説などに触れ内容をまとめ、自分の見聞を広めたり、深めたりする。

【宅習の仕方～例～】

○漢字練習帳は、毎日少しずつ続けましょう。「漢字の友」や教科書の漢字字典のページ（資料編）を見ながら練習するとよいでしょう。

	怪	あ や	縄	な わ	縄	じょう
	し い		跳	と	文	もん
	怪	あ や	び		時	じ
	し い		縄	な わ	代	だい

漢字は、熟語や短文の形で練習した方が覚えやすいです。一つの漢字にいろいろな音訓があるので、すべての読み方について練習しましょう。

読みがなも、必ず書きましょう。また、送りがなは1マスにまとめて書きましょう。

☆その他、書き方や提出の仕方についての細かいルールは、教科担当の先生の指示をよく聞いてください。

【ノートの取り方～例～】

○ノートは縦書きのものがのぞましい。色づかいを工夫し見やすいノートづくりを心がけましょう。

上段には、日付やページなどを、中段には板書事項を書くことよい。
 下段には、語句の意味や、先生の話を聞いたメモなどを書くことよい。

クッシングは、なんと……	＜ロメ＞	P.9	申しわけ	P.7	巨大	ことば	15
		由	言いわけ、述べるべき理		非常に大きいこと	意味	20

47(金)
二時間目
○○ページ

学習目標
記事の材料を集めよう

自分新聞をつくらう

① 自分自身のこと
 ・ 趣味：お菓子作り・テニス
 ・ 将来の夢：パティシエ

② 身のまわりのこと
 ・ 特技：ものまね
 ・ 最近、家の犬が芸を覚えた

社会の勉強の方法

教科のねらい

社会科の力を伸ばすためには、地理や歴史、現在の社会に興味・関心をもつことが大切です。昔のできごとや現在の社会のようすについて、「なぜ、そうなったのだろうか?」「現在は、どのような問題があるのだろうか?」「人々は気候や自然をどのように生かして生活しているのだろうか?」というような疑問を抱き、解決しようとする態度が求められます。<関心・意欲・態度>

次に、興味や関心があることを、博物館や資料館・図書館・インターネットなどを利用して、いろいろな方法で調べ、さまざまな方向から考察し、自分の考えたことを他人に伝えようと、図表やグラフ、写真などを用いて、その成果をまとめることも重要です。このような作業が、資料を読み取り、判断して、活用していく力につながります。<社会的思考力・判断力><技能・表現>

さらに、学習した中で、キーワードとなる語句があります。この語句が、どのような出来事や事象を指しているのか、正しく意味を理解することも大切です。<知識・理解>

これらの学習によって身に付いた力は社会に出たときに必ず必要になります。つまり、中学校社会科のねらいは、「自分が社会に出て、よりよく生きるための力」を身につけることと言えるでしょう。

授業の受け方

授業中、学習している出来事や事象に対して、「なぜ?」「どうして?」という疑問を抱くことが大切です。予習してわからなかったことや授業中に浮かんだ疑問などは、先生に積極的に質問をしよう。また、集中して先生の説明や友達の意見を聞かなければならないときには、しっかりと耳を傾け、先生が何を説明しているのか、友達は何を言おうとしているのか、社会には色々な考え方があるということも学びましょう。

板書はその授業の大切な部分を要約したもので、しっかりノートに書くこと。その際、先生が話した、ちょっとしたことをメモしておく、後からの復習に役立ちます。

家庭学習の仕方

【予習】

次の授業で学習する内容について、教科書を読み、わからないところや疑問に思ったことについて、ノートにメモしておきましょう。そして、メモしたことについて地図帳や資料集・社会科用語集などを使って、自分で調べます。さらに、その地域の特色や歴史上のできごとが、「なぜそうなったのか」「なぜおこったのか」を考察し、自分の意見をまとめておきましょう。

【復習】

ノートを中心に、その日の授業を思い起こします。そうすることによって学習したことが、一つのつながりとなり、記憶が長く続くことになります。ノートを開き、必要に応じて教科書や地図帳、資料集などを使って、授業中の様子などを思い浮かべてみましょう。興味がわいたところは、インターネットや図書館で調べてみるのもよいでしょう。そして、学習したところのワークやプリントの問題を解き、重要語句の確認を行いましょう。

最後に、普段から歴史や社会に関係のあるニュースや新聞記事を見ておくことも、興味や関心を抱くためにのぞましいことです。

テスト勉強の方法

- 1 参考書や厚もの、一問一答集などを使って、基本的な語句を正しく理解し、覚えます。
- 2 とにかく練習問題をこなし、間違ったところは何回も繰り返して、同じ問題は二度と間違えないようにします。
- 3 集中力が大切。だらだら長くやるよりも、短時間で集中してやりましょう。

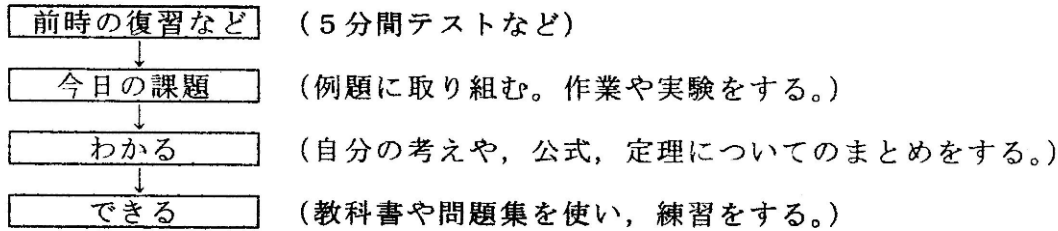
【数学】

数学は積み重ねが大切。少しずつでも毎日、取り組むことから始めましょう。

【授業の受け方】

授業を大切にする。《集中》し、積極的に《参加》する。

- 1 精神を集中する～学習の基本は授業です。
 - ・ 授業の『流れ』に乗って学習をすることが大切です。
 - ・ 授業の「山場」「ポイント」では特に集中することです
 - ・ 授業には、大きく次のような『流れ』があります。



- ・ 「わかった」⇒「できる」ようになるまで、練習を続けることが大切です。説明を聞いて「わかった」だけでなく、問題を解いて「できた」まで、到達することです。
- 2 授業に参加する～積極的に挙手し、発言する。
 - ・ 発表しようとすることで自分の考えをまとめることができる。
 - ・ 不安や苦手意識を取り除き、自分の学習に自信を持つことができる。
 - ・ 自分がわからないところは、友だちの発表や先生の説明などが大いに役立ちます。
 - 3 「間違い」を次に生かす。
 - ・ 課題に取り組んでいると間違ふことがあります。その間違いを次に生かすこと
 - ・ なぜ間違ったのか、どこで間違ったのか、原因を明らかにし、次に同じ問題に取り組めます。
 - ・ 教科書、問題集などで間違った問題に印を付けておくことも大切です。
 - 4 ノートをしっかりとる。
 - ・ ノートは自分だけの参考書です。ていねいにわかりやすくをこころがけましょう。
 - ・ 黒板に書いてあるものは、すべてノートに写す。
 - ・ 黒板に書いてないことでも大切なポイントは必ずノートに書くようにする。
 - 5 わからなかったところは、教科書やノートにチェックする。
わからないところをそのままにすることが数学を苦手にしていく原因となります。友だちや先生に質問をしてその時間のうち、またはその日のうちに解決するようにしましょう。
 - 6 教科書や問題集を活用しよう。
 - ・ 宿題が出されたら、早いうちにすませる。また問題集などでできるだけ多くの練習問題に取り組むようにしましょう。

【家庭での学習】

○ 予習のしかた

- 1 教科書の例題をよく意味がわかるまで読む。そして、その問題に関係のある、これまで学習した公式や定理などをもう一度確認する。
- 2 例題を自分で解いて、教科書の考え方との違いについて調べる。
- 3 教科書の他の問題を解いてみる。解けない問題はノートに写しておき、授業に臨む。

○ 復習のしかた

- 1 授業のあったときは、その日のうちに、必ず教科書、ノートに目を通す。
- 2 授業の内容や要点（公式や教科書の中でゴシック体で書かれている部分）は、必ずノートにまとめて覚えるようにする。
- 3 予習したときにできなかった問題をもう一度、解いてみる。
- 4 宿題はその日の授業の復習なので、その日のうちにすませる。
- 5 同じような問題を、教科書や問題集の中から見つけ、解いてみる。
- 6 図形の問題は、実際に図を書き、手を動かして考えることで、理解を深める。
- 7 文章問題は図や表に書くことで考えをまとめる。
- 8 どうしてもわからないところは翌日に質問する。

まずは問題に挑戦してみよう。

いろいろな問題に挑戦していくと、疑問がわいてきたり、なるほどと気づくことができたりするものです。それがやる気にもつながります。

数学の上達法は、やり方を身に付けること。つまり、解き方を覚えることです。やり方がわからないところから問題ができるところまでに到達するために、1問でも多く、問題に取り組んだ方が理解は深まります。

その手順は

- 1 やさしい問題を確実にする。
- 2 計算問題ができるようになる。
 - ・スピード、正確さを大切にする。
 - ・計算力は数学の問題解決の基礎です。練習を毎日必ずするようにしましょう。
- 3 応用問題に挑戦する。

【ノートのとり方】

自分だけの参考書を作るつもりでノートを書きましょう

○ ノートの書き方の原則

- 1 よく聞く。
- 2 自分のことばで書く。
- 3 黒板に書いてあることはすべて書く。
- 4 ポイントをメモする。
- 5 問題の要点を整理し、図や表にして書く。
- 6 色分けや下線をつける。
- 7 自分で理解しにくいところには印をつける。

○ ノートをとるときの留意点

- 1 教科書や問題集の問題を解く場合、ページや問題番号を必ず書き、振り返ることができるようにする。
- 2 計算問題は計算の過程をきちんと書き、どこで間違ったかがわかるようにする。
- 3 図形の問題は図をノートに写し、等しい辺や角に印をつける。

理科の勉強の方法

教科のねらい

- ・ 自然に対する興味・関心を高める。
- ・ 目的意識をもって、観察・実験を行なう。
- ・ 自然の事象についての理解を深める。
- ・ 科学的な見方や考え方をやしなう。

授業の受け方

- 1 今日の授業の課題は何なのかを、はっきりつかもう。

目的や意味を分かっている状態で、頭と体を使って実験・観察をすると、効果的に記憶することができます。(後でワークなどの問題をやると、たとえ細かい部分は忘れていた部分があっても、「そういえば・・・」と思い出せる。しっかり、頭に入ります。)

- 2 授業に集中する。「聞く」「考える」「発表する」「実験する」等のけじめをきちんとつける。理科室での私語はしない!

教師の指示をしっかりと聞くことで、安全で充実した授業を受けることができます。メリハリをつけましょう。

- 3 今日の授業で、何が分かったのか(実験・観察から何が明らかになったのか) 言えるようにしよう。

ただ板書をノートに写すだけでは、自分自身が理解しているのかさえもわかりません。実験・観察のときは、結果から言えることを、自分の言葉でまとめる努力をしましょう。考える力が一番つくのはここです。

- 4 理科室では、

- ① 早めの移動。
- ② 勝手にものをさわらない。
- ③ 安全に十分に気をつける。

家庭学習の仕方

- ・ 基本的な用語、公式などについては、しっかりと理解を深め、覚える。
- ・ 「ワーク」などで問題演習をする。
- ・ 分からないところはそのままにしないで、調べたり聞いたりして、理解できるようにする。

テスト勉強の方法

- ・ もう一度、教科書などで、実験や基礎用語、公式などについて復習する。
- ・ ワーク・プリントなどの問題演習を繰り返す。

英 語 科

1 学習のねらい

国際化の時代に生きているわたしたちにとって、英語は書かせない言語です。英語力（聞く、読む、話す、書く）を身に付けること、さらに英語学習を通して、外国の文化について学んだり、実際に英語を使って表現できたりすることが英語学習の大きなねらいです。

2 授業の受け方

- ① 宅習課題はきちんと済ませて授業にのぞもう。
- ② 授業に集中しよう。（英語の授業にはリズムがあります。授業のリズムにのって学習しよう。）
- ③ ペア学習やグループ学習のコミュニケーション活動に積極的に取り組もう。
- ④ 間違いを恐れず、どんどん英語で表現しよう。みんなが気持ちよく英語で表現できる授業の雰囲気を作ろう。（他の人の間違いを笑ったり、冷やかしたりしない。）
- ⑤ 分からないときは必ず質問をしよう。
- ⑥ ワークシートや復習プリントは必ずプリント綴りにとじ、いつでも見直せるようにしよう。
- ⑦ ALTとの授業の際は、積極的にコミュニケーションを図り、外国の文化や様子について質問したりしよう。（ALTの存在は英語学習に大きく役立ちます。授業以外の場面でも英語を使って話してみよう。）

3 復習のしかた

- ① その日に学習したところを必ず音読しよう。
- ② 単語や本文を宅習ノートに練習して覚えよう。（1日1ページ、継続は力なり！）
- ③ 基本文は、暗唱・暗書ができるようになろう。
- ④ 基本文を使って、自分のことや身近なことについて英語で簡単に表現してみよう。
- ⑤ ワークブックなどの問題集を活用し、復習をしっかりしよう。

4 テストに備えて

- ① 新出語をしっかり覚えよう。（書いて覚えること）
- ② 基本文はしっかり理解し覚えておこう。また、それを使って英語で表現できるようにしておこう。
- ③ 教科書の文はよく内容を理解しておこう。
- ④ ワークブックや単元のまとめ、授業で使用したワークシートを必ず見直し、できなかったところをもう一度やっておこう。
- ⑤ 自分が理解できていないところを確認し、理解できるようになるために質問をしよう。

5 その他 余裕があれば予習をして授業にのぞむと授業が分かりやすくなります。

【予習のしかた】

- ① 本文の新出単語を辞書を活用して調べ、ノートに書こう。
- ② 教科書の基本文や本文に目を通し、大まかな内容をとらえておこう。

英語科の学習ノートの取り方具体例

【授業用ノート】

1年生は市販の授業用のノートを使っていきます。そのノートの形式に沿ってまとめましょう。2, 3年生は下記の例を参考にしてみてください。

単元名 (教P)	日付 (英語で)
<p>★ 新出語を表にしてまとめよう。 (アクセントの位置、意味、用法など)</p>	<p>★ 教科書の本文と意味を書こう。</p>
<p>★ 板書事項をまとめよう。 (文法事項、基本文など)</p> <p>黒板に書かれていないことでもメモをとるといいでしょう!</p>	<p>★ 練習コーナー (ここで学習した単語や基本文を どんどん書いて覚えよう。)</p>

【英語宅習ノート】

★ 1日1ページが目標です。

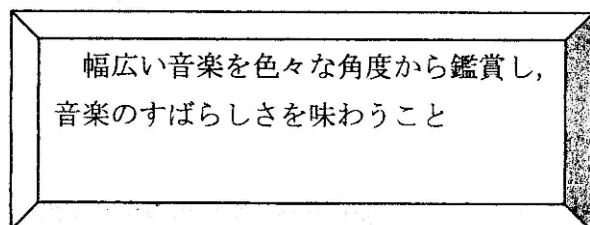
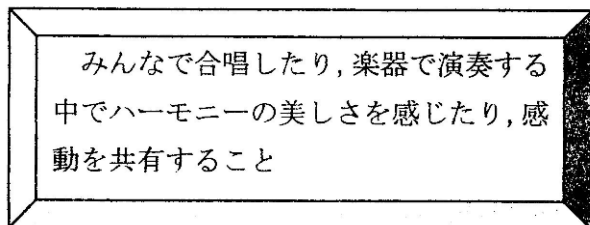
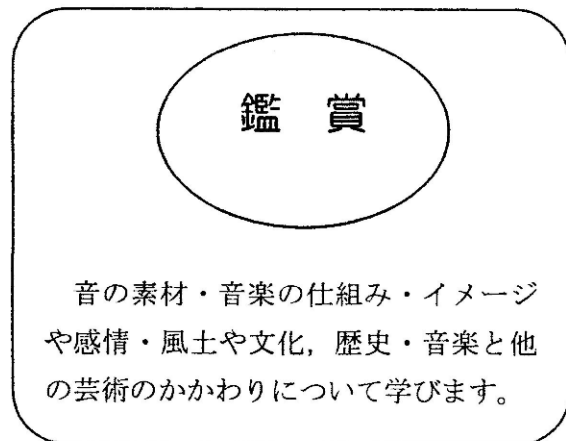
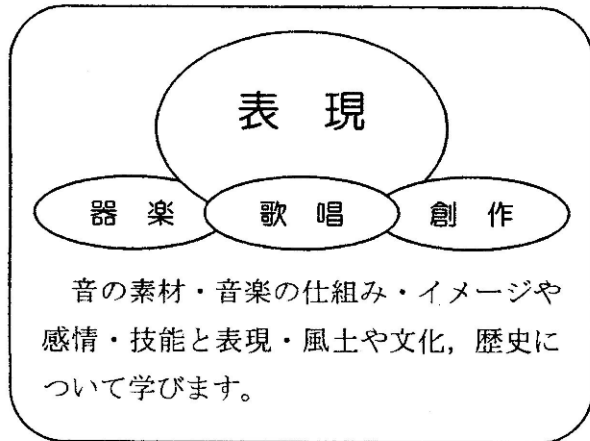
<p>Unit 1 Baseball Friends April 10 Tuesday news (ニュース) news news news news news store (店) store stoer store store store</p> <p>This cap was 2,000 yen last week. 「この帽子は先週 2,000 円でした。」 Was this cap 2,000 yen last week? Yes, it was. / No, it wasn't. . . .</p>	<p>単語を繰り返し書いて 意味やスペルを覚えよう。</p> <p>基本文、教科書の本文、授業で 習った文などを書いて覚えよう。</p>
---	--

* 上の宅習ノート例はあくまでも基本的な学習です。自分の力に合わせて英作文に挑戦したり、英語で日記を書くなどの発展的な学習をしてもかまいません。

音楽科

学習のねらい

音楽の学習は次の二つの活動に分かれます。



【目標】

- 音楽を愛好する心
- 音楽に対する感性を豊かにし, 音楽活動の基礎的な能力を伸ばす
- 豊かな情操

授業での心がけ

- 学習用具を忘れない (教科書, ノート, ともしび, Tomorrow, アルトリコーダー)
- 移動を早くし, 始業の合図を守る。
- 静と動のけじめをつける。(聴くとき, 表現するときの態度)
- 間違いを恐れず, 何事にも周りに伝わるように表現する。

テスト勉強の方法

- 普段の授業の内容が中心ですので授業の積み重ねを大切にしてください。
<ノートのまとめ, 楽譜の記号, 曲のまとめ等>



いい声で

いい顔で

いい心で



中学生活で頑張っで欲しいこと

- 自校の校歌に誇りを持って元気よく歌えるようにしましょう。
- 音楽を通して学校生活を明るく豊かにしていきましょう。

美術学習の仕方について

美術とは、「創造し表現する」また「美しさを味わう」という人間にしかできないこと・人間にしかない文化を学ぶ教科です。美術には“表現”と“鑑賞”の二つの分野があり、自分のアイデアを作品として表現する力と本当に価値のあるものを見つけて味わう力を養うことができます。

【美術で身につけたいもの】

1 美術への関心・意欲・態度

美術に興味を持ち、表現や鑑賞に一生懸命取り組み、つくる喜びを味わう気持ちを育てる。

2 発想や構想の能力

感じたことや考えたことをもとにアイデア豊かに発想し、構想をまとめていく力を養う。

3 創造的な技能

表現における各分野の基礎的スキルを身につけ、表現意図に応じた道具を使って制作できるようになる。

4 鑑賞の能力

美術作品や芸術家についての知識を高めるとともに、その良さを味わえる豊かな心を育てる。

【授業を受けるときに大切なこと】

1 時間を守る（教室移動、授業開始、準備・後片づけ、授業終了）。

2 忘れ物をしない（必要なものを忘れたら活動ができません）。

3 私語をせず、制作に集中する（私語と相談・質問は違います）。

4 道具を大切に使う（大事にされている道具は長生きして、制作に力を貸してくれます）。

5 お互いの安全に気をつける（自分と自分の周りの人を大事にすれば、誰も怪我をしません）。

6 作品の提出期限を守る（制作の見通しを立て、計画的に作っていきこう）。

【家庭学習について】

1 特に予習・復習が必要な教科ではないが、日頃から美術に親しむように心がけよう。

(1) 美術館や作品展に足を運び、優れた絵画や彫刻を鑑賞する。その際はマナーにも気をつける。

(2) 図書室や美術室にある画集などを見て、さまざまな作品や作者の生い立ちについて知る。

(3) TVで美術に関する番組を見て、間近で鑑賞することができない作品にも興味を持つ。

2 テストは資料集や授業で配布したプリント類の中から出題されます。

【その他】

1 毎回持参する必要がある道具は

資料集 クロッキー帳 デザインセット 教科書

です。これらをまとめて『4点セット』と呼びます。

2 良い作品づくりは良い環境づくりから。全員が制作に集中できる雰囲気をつくっていきましょう。

保健体育の学習の方法

教科のねらい

中学生期は、「第2の発育・発達促進期」といわれ、心も体も大きく発育・発達する時期です。身体が大きく成長するだけでなく、体力も運動技能も一番伸びるのが、この中学生期です。私たちの生活にとってもっとも大切なもの、それは健康です。保健体育では、この健康を保持増進していくための知識や実践力を「保健」と「体育」に分け、学びます。

保健では、体や心の発育・発達、健康・安全についての知識を学び、健康で安全な生活を営むための能力や態度を身につけましょう。

体育では、運動する喜びや楽しさを味わうために必要な技能を身に付け、運動を継続して行うことによって体力を高めていきましょう。そして、大人になった時にも、積極的に運動に親しむ習慣を身に付け、明るく豊かな生活を営みましょう。

授業の受け方

保健体育、特に体育は、礼儀作法を重んじ、規律ある行動、機敏な行動等が要求される教科でもあります。また、運動における競争や共同の体験を通して、公正な態度や協力・責任など、社会生活に必要な態度も養いましょう。

運動ができる、できないではありません。自分にあった課題を見つけ、みんなで明るく、仲良く、元氣よく活動しよう。

また、目的意識を持って授業に臨めば、技能の習得や伸びに大きな差が出ます。授業前に課題を設定し、授業後に反省・評価をしましょう。

仲間と協力したり、アドバイスをしたりすることで、知らなかったことに気づいたり、大きな達成感を得たりすることができます。助け合い、教え合いながら技能や知識を身に付けていきましょう。

1 授業前

- ① 教科連絡係は前日の午前中までに教科連絡をとり、学級全員に知らせる。
- ② 更衣は指定の場所で行い、制服等は整理しておく。
- ③ 学校指定の体育服を着用し、シャツはハーフパンツの中に必ず入れる。
- ④ 見学者も体育服に着がえて見学をする。
(特別な理由で着がえられない時は、担当の先生に連絡する。)
- ⑤ 更衣をすませたら速やかに移動し、運動場は2周・体育館は5周ランニングをする。
- ⑥ 保体部長は時間通りに授業が開始できるように、集合・整列させる。

2 授業中

- ① 集合→健康観察→出欠状況の報告→あいさつ
○年○組 男子→ ～～君が欠席、計()名です。
※ 女子も同様の形式で報告する。
「脱帽」→「姿勢」・「礼」→「おねがいします」
- ② 準備運動・補強運動をする。
- ③ 活動のねらいを確認し、計画を立て個々の能力に応じた課題解決に向かって、協力しながら意欲的に取り組む。
- ④ 活動中は常に健康や安全に留意し、機敏な動作で行動する。
- ⑤ 整理運動を行い、毎時の学習内容を評価し、次時に生かす。

3 授業後

- ① 手洗い・うがいをし、汗をふきとり、身体を清潔にする。
- ② 更衣を早く行い、次の授業に遅れないようにする。
- ③ 学習した内容が日常生活に生かされるように努力しよう。
- ④ 次時の学習内容について、教科担任と連絡を取る。

技術・家庭科の学習の手引き

1. 教科について

技術・家庭科は、「技術分野」と「家庭分野」から成り立っています。

<技術分野>

- 技術とものづくり・・・木材や金属等の加工、エネルギーの学習をします。
- 情報とコンピュータ・・・コンピュータ活用や情報の活用方法について学習します。

<家庭分野>

- 生活の自立と衣食住・・・衣服、食物、住居について実習を通して学習します。
- 家族と家庭生活・・・幼児成長や家族のことについて学習します。

どちらの分野も、みなさんがこれから家庭や社会で生活していくうえで身に付けてほしいものです。楽しく、積極的に授業を受けて、よく生活の中に役立てて生きましょう。

2. 授業の受け方

- ① 授業に入るための準備、授業後の後片付けをしっかりとる。
 - ア) 忘れ物をしない。(教科書、ノート、資料集など)
※忘れた場合は、必ず、授業前に先生に連絡をしよう。
 - イ) 1分前着席を守る。(特別教室で授業を行うことが多いので、気をつけよう)
 - ウ) 工具や道具を使用するときは、安全面に注意して、ふざけたり、けがをしたりしないようにする。
- ② 積極的に授業に取り組む。
 - ア) 質問や発表等進んでみましょう。
 - イ) 「なぜ、こうなるのだろうか?」といったような探究心、好奇心を持って授業に取り組もう。

3. 家庭学習、テスト勉強について

- ① 授業で習ったことを実践しよう。
 - ア) 自分で工夫したりすることも大切です。自分の生活の中で役立てましょう。
 - イ) エネルギー問題、環境問題等に興味を持ち、自分の生活にいかしましょう。
- ② 授業で習ったことを復習しよう。
 - ア) ノートやプリントなど、しっかりと復習しましょう。
 - イ) わからなかったところは、先生に聞いて、わからないままにしないようにしましょう。